

やさしい郵趣用語集

(郵趣入門ガイド)

切手収集やリーフ作りに関心を持ち始めた頃、切手関連の雑誌や会話で聞き慣れない単語に出あうことがあるでしょう。例えば、郵趣(ゆうしゅ)です。



図1. 小型シート

郵趣とは、切手を収集し楽しむ趣味です。公益財団法人日本郵趣協会が発行している月刊誌の名称にも『郵趣』が使われています。郵趣品(ゆうしゅひん)とはマテリアルとも呼ばれていますが、郵便事業関連で作られた切手、はがき、消印、使用済み封筒や使用済みはがき等のことです。

フィラテリーも時々耳にしますね。これは郵趣の原点を表現する外国語で、フランス人のM. G. HERPINさんが名付けたとされています。フィラテリストとは切手収集家(きってしゅうしゅうか)のことです。

そこで、切手収集家の皆さんが仲間内でよく使われている郵趣用語をつぎのA. ~G. の7項目に区分し、簡単に説明することにしました。

- A. 切手の種類、B. 切手の本体、C. 切手の形状、D. 消印、
- E. シート、はがき、封筒等、F. 整理用品等、G. 印刷、カタログ、購入等

A. 切手の種類

普通切手(ふつうきって): 通常使用する切手なので発行枚数に制限がなく、日常的に販売される切手。通常切手とも言う。

記念切手(きねんきって): 特別な行事等の記念のため発行される切手が記念切手で、普通切手以外のシリーズやキャンペー切手等は記念特殊切手と言う。

コイル切手(—きって): 自動販売機で販売されるコイル状に巻かれた切手で、日本では目打が切手の上下にあり、左右には目打がない(図2)。

Pスタンプ: 顔写真付き切手の略称。切手のマージン部分に個人の写真を印刷、または加刷した切手。日本では2001年に発行された。



図2. コイル切手

フレーム切手(一きって): 切手の表面に額面の書かれた切手本体となるフレーム(枠)を設け、中央の空白部分に任意のイラスト等の図柄が印刷されたオリジナル切手(図15)。一般個人でも図柄をオリジナルデザインで、この種の切手を製造、注文することができる。

手彫切手(てぼりきって): 明治初期の切手。銅版に手作業で図柄を彫るエッチング法を使用(図3)。手彫り切手は竜切手、桜切手、鳥切手、改色桜切手の4グループに大別される。



図3. 竜切手 百文

小判切手(こばんきって): 1876(明治9)年5月17日に発行された切手



図4. 小判切手
12銭

で、図柄中央部の輪郭が小判型なので小判切手と呼ぶ(図4)。1876~1979年発行は旧小判、その後1888~1892年発行は新小判に区分。

シール切手(一きって): セルフ・アドヒーシブ・スタンプとも呼ばれ、裏糊を水に湿らすことなく封筒などに貼付できる。多くは水剥がし可能。

B. 切手の本体

プルーフ: 切手の原版や実用版の作製に際し、試し刷りで作られた切手。原版による印刷物はダイ・プルーフ、実用版の場合はプレート・プルーフ。

印面(いんめん): 切手の図柄や額面が印刷されている表面のことで、大きさは横x縦で表示。

額面(がくめん): 郵便料金として使える金額で、切手の印面やはがきの料額印面に表示。

ウエル・センター: 切手の印面すべてが、目打ちの四辺に対して中央に正確に位置している状態を指す。

オフ・センター: 切手の印面すべてが、目打ちの四辺に対して上下や左右にずれている状態を指す。

定常変種(ていじょうへんしゅ): 切手原版の特定位置に傷等の欠点があった場合、切手シートが印刷されたとき、その欠点が常にシート上に表示されている切手。

加刷(かさつ)： 発行された切手の印面に、文字、模様、料額数字等を印刷または押印して再発行すること。

エラー： 切手の製造過程で、誤操作により発生した標準と異なる製品のこ
と。図柄、刷色、用紙、目打ち、加刷などに各種のエラーが生じる。変種ある
いはバラエティとも言う。

裏糊(うらのり)： 切手の裏面に貼付されている糊で、現在は合成樹脂のポ
リビニール・アルコール(PVA)が使われている。

C. 切手の形状

未使用(みしよう/ミント)： 消印等で切手が抹消されてい
ない状態。

単片(たんぺん)： 切手シートから切り離された1枚の切手の
呼称(図5)。



図5. 単片

ペア： 2枚の切手が縦、または横につ
ながった状態の呼称(図6、図7)。



図6. 横ペア



図7. 縦ペア

ストリップ： 3枚以上の切手が縦横方
向につながった状態にある切手つながり
の呼称(図8)。



図9. 田型

田型(たがた)： 縦と横に切手が2枚
ずつつながり、田の形に見える切手の呼
称(図9)。

マルチプル： ペア、ストリップ、田型な
どのように2枚以上の切手がつながった
状態で、対象となる切手シートの単片総
数から1枚少ない切手枚数までのブロッ
ク(かたまり)。



図8. 縦ストリップ

連刷(れんさつ)： 図柄や額面刷色が異なる2種以上の切手
が、シート上に連続してデザイン構成されている状態。

マージン： 耳紙(みみがみ)とも言う。切手印面の周囲や、
シートの余白部分こと。隣接する切手の余白はガッターと言う。

タブ: 切手シートや切手ペーン等で、切手本体以外の余白部分に図柄や文字が印刷されているラベル。

銘版(めいはん): 切手シート下部や耳紙に表示される切手製造所、あるいは製作者名のこと(図10)。

カラー・マーク: 切手シートの耳紙に印刷された色リストのことで、切手印刷に使われたインク色の種類と数を表示してある(図10)。

目打(めうち): 切手のまわりに連続して開けられている小穴のことで、切手を切り離すために便利な細工となっている。

紙付(かみつぎ): 切手が貼付された封筒や私製はがきなどの郵便物の多くは紙で作られている。貼付された切手を封筒等に付けたままで切り取られた状態の切手。



図10. 銘版(右下)
カラー・マーク(左下)

D. 消印

印影(いんえい): 封筒等に押された郵便印などの図柄。

消印(けしいん): 切手やはがきの料額印面に押された日付印や抹消印。

波消(なみけし): 料金別納で支払われた切手の抹消に使われる波形の印影。現在は、機械式押印で、波形印影に加えて局名と日付も表示。

和文印(わぶんいん): 国内用郵便印の総称。通常、ローラー印以外の手押し日付印を指す。

櫛型印(くしがたいん): 櫛形日付印の略称で、日本の代表的な郵便印(図11)。円形印の中央に日付を表示する位置を二本線で区切り、その上下に櫛形模様がある消印。

機械印(きかいいん): 機械日付印のことで、自動押印機で使用される郵便印。基本的には、切手の図柄を消す波型部分と、局名や日付を表示する円形部分とからなる。使用目的等により、標語印、広告入り印、年賀印、選挙印等がある。



図11. 櫛形印

欧文印(おうぶんいん): 外信印や外郵印とも言い、外国宛郵便物の消印(図12. 参照)。局名や国名はローマ字か欧文で、年月日も西暦で表示。



記念印(きねんいん): 行事や催事を記念するために作られる日付印で、記念に関係する図柄が描かれる。特印や小型印など。

図12. 欧文楕形

メータースタンプ: 郵便料金計器で押される印影と、郵便局設置の証紙自動発行機による郵便料金証紙のこと(図13)。ともに切手と日付印の機能をもち、料金額、局名、日付等が表示される。



図13. メータースタンプ

風景印(ふうけいいん): 特別日付印のひとつで、風景入り通信日付印の略称。風景として、郵便局所在地域

の名勝や記念物を描いた記念印(図14)。直径36mmの絵入りゴム印で、印色はトビ色。使用期間の制限はない。



図14. 風景印(宮内庁内) 額面62円の慶事用切手を貼付

小型印(こがたいん):

小型記念通信日付印の

略称で、地方的な記念行事等で使われる記念印(図15)。直径32mmの絵入りゴム印で、印色はトビ色。使用期間は短く、通常1日~1週間程度。この小型印は日本郵趣協会主催の研究発表会(ミニペックス)や「切手の



図15. 小型印 (飛行郵便試行100年記念) 額面82円のフレーム切手を貼付

博物館」のイベントでも使用されることがあり、押印サービスもおこなわれる。

E. シート、はがき、封筒等

切手帳(きってちょう): ブックレットとも言う。ブロック状に配列した未使用切手に表紙や解説を付けた小冊子で、携帯用に便利な未使用切手の綴り。

シート：切手シートのこと。郵便局窓口で販売されるシートには、普通切手が100枚印刷されているが、慶事用切手は1シートで10枚となっている。

小型シート(こがた一)：記念やイベント等を広告するために1枚あるいは数枚の切手を配して、関連する文字や飾り模様を余白に加えた通常より小さいサイズの切手シート(図1)。

ステーションナリー：郵便ステーションナリーの略称で、官製の封筒、はがき、帯紙、エログラム等の総称。

エンタエア：実際に配送された封書、はがきや帯封等で二次加工されていない状態の郵便物。未使用のステーションナリーも含まれる。

実逋便(じつていびん)：実際に配達された郵便物。実逋と略称する。

カバー：郵便物として使用された封書、はがきや帯封等の総称。

カシェ：初日カバー等の余白に描写あるいは印刷された文字や画像。フランス語圏では、カバー上の証示印や記念スタンプ類もカシェと呼ぶ。

官白(かんぱく)：宛名を書かない官製はがきの料額印面に、風景印や小型印等を押印した郵趣品。

初日カバー(FDC)(しょにち一)：発行日に販売された新切手を封書や私製はがき等に貼り、当日の日付印が押されている郵趣品。

初飛行カバー(FFC)(しょひこう一)：新規開設の航空路を初飛行する飛行機第1便に搭載された郵便物。この郵便物には、航空会社等が作成した記念郵趣品もある。

F. 整理用品等

ストックブック：切手等を収納・保存するための本型の保管用品で、収納ページには棚状のポケットがある。ページの大きさや枚数、またポケット棚の段数等は各種ある。

リーフ：ページとも言う。切手やカバーなど収集した郵趣品を目的に応じて分類・整理し、データや説明文を書き込むための台紙(図16、参照)。通常使われているリーフの大きさは、レターサイズ(縦278mm×横214mm)か、あるいはA4判(297mm×210mm)である。競争切手展では、展示フレームの収納規格に基づき展示可能なリーフの大きさを指定することがある。

ストックリーフ： ストックブックの収納ページを切り離して、1枚のリーフにした状態の用品。バインダーで束ねると、切手の種類毎にページをまとめることができるので便利。

アルバム： 保存、整理しておきたい切手等を貼り、データや説明文等を書き込んだリーフを綴ったファイルで、写真アルバムと類似。自作リーフを順序立てて整理し、バインダーでアルバムにする。

ヒンジ： 使用済み切手を台紙に貼るために便利な糊引きのある紙片で、蝶番(ちょうつがい、英名でヒンジ)の形状をしている。両面テープ(弱)を小片に切り、ヒンジの代用として短期間使うこともある。

コーナー： カバー類をリーフに固定するための用品。写真コーナーの類似品。コーナーの代わりに、カバー類をサイズの合った透明袋(ポリプロピレン(OPP))封筒に入れ、両面テープ(弱)でリーフに固定する事例もある。

マウント： 貴重な使用済み切手や未使用切手等をリーフに貼付する場合に使用する裏糊付きの透明ポケット。ポケットの大きさは各種あるので、收容する切手の大きさより2mm程度大きめに3方をカットして使用する。なお、切手入りのマウントを短期間で貼付リーフから移動させる必要から、マウントをリーフに固定するため両面テープ(弱)を使用する事例もある。

切手用ピンセット(きってよう一)： 切手を取り扱う専用のピンセットで、切手を取り扱い易くし、傷つけ防止のために先端部分が平たくなっている。ピンセットの材質や大きさは各種ある。

保護ラップ(ほごらっぷ)： 切手やカバー等を貼ったリーフを保護するための無延伸ポリプロピレン(CPP)袋で、3方とじになっている。保護ラップを付けたリーフを3穴バインダーに収納するために便利な3穴保護ラップもある。

ルーペ： 拡大鏡。切手印面や消印の細部等を確認するために使用する。最近では、スマートフォンで切手等の写真を撮り、拡大して調べる事例もある。

トピカル収集(ーしゅうしゅう)： 切手の図柄や発行目的別に収集する方法。日本郵趣協会では毎年春にトピカル切手作品の競争展を開催している。

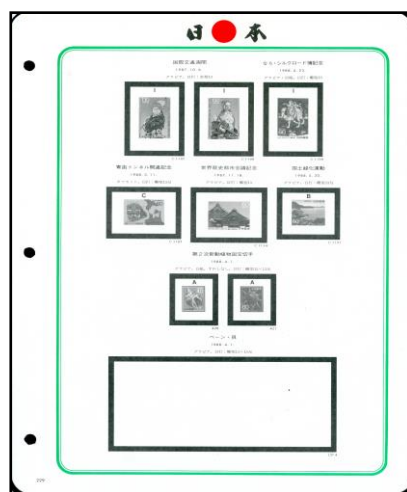


図16. 図入りアルバムリーフ

G. 印刷、カタログ、購入等

凹版印刷(おうはんいんさつ): 凹状に彫るか、腐食させる等で作成した原版にインクを詰めて印刷する技法のこと。写真化学手法により作成した写真凹版やグラビア印刷も凹版印刷である。

カタログ: 型録とも書き、切手等の目録あるいは図鑑のこと。発行目的により切手を分類し、発行日、目打数、図柄の小解説等のデータを記載し、評価を加えたりストを発行順に整理した印刷物。

日本切手カタログ さくら(にほんきってー さくら): 「さくらカタログ」と略称。公益財団法人日本郵趣協会が毎年発行する日本切手のカタログで、日本で発行された8000種以上の切手等を対象として収録している。

スコット切手カタログ (ーきってー): アメリカの郵趣会社であるスコット社が発行する切手カタログのことで、紙版の他、CD版も揃えている。世界で発行されたとされる50～60万種の切手を収録の対象としている。

パケット: 国別やトピカル別に切手を1種1枚ずつ所定の枚数を束ね袋詰めした販売品。収納切手枚数はさまざまで、数千枚の場合もある。郵趣をはじめるときに役立つ切手セット。

オークション: 郵趣品等の競売(きょうばい、けいばい、せりうり)のこと。「入札」により最高値を付けた買い手が「落札」して該当商品を購入できる売買方式で、手数料が必要となる。競売会場に集まった買い手が競売に参加する方式をフロア・オークションと呼ぶが、ファクシミリやメールの入札も受け付ける場合がある。また、ファクシミリとメールだけで競売する場合はメール・オークションと呼んでいる。

~~~~~  
注1. 公益財団法人日本郵趣協会(2019年)発行「切手収集に役立つ もの知り切手用語集」から図11と図12を引用。

注2. 郵趣用品と切手類は、切手の博物館1階のミュージアムショップや、(株)郵趣サービス社(雑誌:スタンプマガジン、通信販売:スタマガネット)から、また各種切手展会場等の切手販売ブースや切手商等で購入することができる。

公益財団法人日本郵趣協会普及委員会 (2019年度制作)

171-8790 東京都豊島区目白1-4-23 切手の博物館4階